



ICT*AT*AAC*DX*etc.

GIGAびより

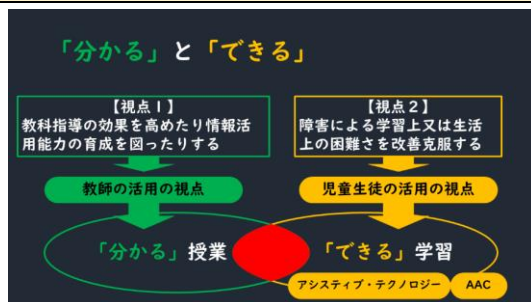


No.14
発行 2024.09
中原特別支援学校

8月6日(火)にICT活用研修「夏のGIGAまつり」を実施しました。県内の小中学校、特別支援学校を対象にした公開研修として実施し、21校(本校除く)から28名の参加がありました。今回は当日の研修内容を紹介します。



「特別支援教育とICT」



ICTを活用するとは

デジタルの特長を生かして教育の質を向上させる
→単純なアナログからデジタルへの置き換えではない。

「いいアプリありませんか？」

→何が「分かる」授業にしたいのか？

何が「できる」学習にしたいのか？

→例えば「カメラ」でどんなことができるだろう？

授業づくり全体の中で、「分かる」手立て「できる」手立てをどう工夫したいかを明確にしよう！

特別支援教育でのICT活用について、文部科学省の資料を基に研修を行いました。「教育の情報化」とは、単純なデジタルへの置き換えではないことを踏まえ、教師が「分かる」授業を行うためのツールとして、児童生徒の「できる」学習につながるツールとして活用するために、授業づくり全体で工夫が求められることを確認しました。

「通常の学校・学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒へのICT活用」

特別支援教育における教育の情報化

第1章 社会的背景の変化と教育の情報化
第4節 特別支援教育における教育の情報化
2. アシスティブ・テクノロジーの意味

障害による物理的な操作上の困難や障壁(バリア)を、機器を工夫することによって支援しようという考え方がアクセシビリティであり、それを可能とするのがアシスティブ・テクノロジーである。これは障害のために実現できなかったこと(Disability)をできるように支援する(Assist)ということであり、そのための技術(Technology)を指している。

教育の情報化に関する手引-速報版-(令和2年6月)/文部科学省(2021)

障害のために実現できなかったことをできるように支援



「教育の情報化に関する手引」(文部科学省)に示される「アシスティブ・テクノロジー」(支援技術)としてICTを活用し、読む、書く、聞く、記録する方法について演習を行いました。事例の紹介や演習をとおして、児童生徒の「できる」を支えることができるツールとして活用できることを確認しました。

「コミュニケーション支援とICT」

コミュニケーションを支援する



AAC

Augmentative Alternative Communication

拡大・代替コミュニケーション

→話し言葉以外で方法でコミュニケーションをとる技法

VOCA Voice Output Communication Aid

音声出力型意思伝達装置

音声を出力してコミュニケーションを支援する機器



特別支援教育では、ICT機器をコミュニケーション支援機器として活用することもあります。よりよい活用につなげるため、コミュニケーションの発達について研修を行い、発達段階に応じた支援方法について確認しました。併せて、コミュニケーション支援アプリ「DropTap」の演習を行いました。



その他：体験展示

愛媛大学より無償提供されている音声教材「UNLOCK」の体験展示を行いました。教科書などに貼られた専用シールをペンで認識し、文章の読み上げを再生することができます。また、パソコンやタブレットで再生できる音声データとしての配布もされています。詳細については、QRコードからご確認ください（愛媛大学のWebページにリンクしています）。



事後アンケートより（原文のまま掲載）

ICTをなかなか活用する機会を考えることが難しいと日々感じていたので、勉強になればと思い参加しました。自分が知らないことがたくさんあり、本当に勉強になりました。まずは、その子にとって、どの部分のサポートが必要なのかを考えながら、教材研究に取り組みたいと思います。学校では、iPadがないのですが、自分のものがあるので、少しずつ取り入れてやってみたいと思います。病弱学級担当なのですが、生徒の書く負担が大きく、難しさを感じていました。なので、本当に参考になりました。（小中学校）

ICTとはなんなのか、コミュニケーションは何なのかという視点から切り込んでいくお話はとても聴きごたえがありました。iPadを用いたドロップタップの使い方やその他活用事例など、今後の活用に役立つものばかりでした。（小中学校）

子どもたちの「わかる」「できる」のために、ICTの特長をどのように活用できるか、たくさんヒントをいただきました。楽しかったです。（小中学校）

私たちの学校にも書字が難しい子であったり、読むことが苦手だったりする子がいます。そのせいで学習が嫌になることは心苦しかったため、今回の研修で学んだことを子どもたちに還元したいと思います。（小中学校）

今回の研修で、自分の授業にもいかせることをたくさん学ぶことができました。私は中学校の特別支援学級で英語を教えています。書くことや読むことが苦手な生徒が多く、苦手すぎて意欲がわからない状態が続いています。私はどうしても量を減らしたり内容をより簡単にしたりなどばかり気にしていましたが、今回学んだツールをいかせば（アレンジすれば）極端に学習内容を変えなくても取り組みそうだと希望が持てました。今後いろいろ挑戦してみます。ありがとうございました。（小中学校）

一日で長い時間の講義でしたが、わかりやすく注目を引く話で楽しく受講することができた。端末の活用について使ってみたいと思うことが多かったので、夏休み明けに取り組んでいきたいと思う。（特別支援学校）

今までいろんなところで聞いてきた内容が、一本の線に繋がったような感覚がありました。ICTって何なのか、何のために使うのか、具体的な使い方などが分かって、大変良かったです。（特別支援学校）

中原特別支援学校
学校DX戦略アドバイザーによる
特別支援教育におけるICT活用に係る公開研修会
講師 **青木 高光 氏** 10月11日(金) 8:50~12:15
**障害のある子どもの
特性や発達を踏まえた
ICT活用**
来校
または
オンラインでの
参加が可能です
学校法人西蔵井沢学園 さやが屋小学校 校長
国立特別支援教育総合研究所 特任研究員
NPO法人FODプラットフォーム プロジェクト代表理事

文部科学省 学校 DX 戦略アドバイザーによる公開研修のお知らせ

10月11日(金)に、文部科学省 学校 DX 戦略アドバイザー 青木高光氏をお迎えし、「障害のある子どもの特性や発達を踏まえたICT活用」について教職員を対象にご講演いただきます。県内の小中学校、特別支援学校にはすでに二次案内を発出しております。オンラインでの参加も可能ですので、ぜひお申し込みください。

<詳細（本校 Web ページ内）>



<お申込み>



特別支援教育でのICT活用に係るご相談、研修依頼にも応じます

【TEL】0942-94-3575

【Mail】nakabarutokubetsushien@education.saga.jp

【窓口】地域支援部 原野 ※お問い合わせの際に「ICT活用に係る相談」とお伝えください。

© 2024 Saga Pref. Nakabaru Special Needs School

※学校 Web ページにも掲載しています。https://www.education.saga.jp/hp/nakabarutokubetsushien